

清武町埋蔵文化財報告書 第16集

SAKAMOTO

# 坂元第2遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財報告書

2005

清武町教育委員会

# 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成16年度事業地で実施した坂元第2遺跡の発掘調査報告書です。

今年度で10年目をむかえる本事業に伴う発掘調査では、縄文時代早期の人々が使っていた土器や石器などをはじめ、旧石器時代から中近世までの幅広い資料が確認されました。

今後、これらの成果が、人類共有の文化遺産を後世に伝えていく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なご協力を頂きました船引地区改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

清武町教育委員会

教育長 神川孝志

## 例　言

1. 本書は、県営農地保全事業（船引地区）に伴う、坂元第2遺跡の発掘調査報告書である。
2. 図面の作成は、井田篤、若杉知和、（以上実測補助員）が行った。
3. 遺物・図面の整理は、清武町埋蔵文化財センターにて、井田、若杉、  
が行った。
4. 本書に使用した写真は、井田、若杉が撮影を行った。
5. 本書に使用した記号は、以下のとおりである。  
S E : 溝状遺構
6. 本書に使用した方位は、磁北で、レベルは海拔絶対高である。
7. 基本土層等の色調は『新版 標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。尚、本文中で使用している土層番号は、調査区A（以下A区）については第3図、調査区B（以下B区）については第4図を参照。
8. 本書の執筆・編集は、井田、秋成雅博の協力を得て、若杉が行った。

# 目 次

## 第1章 一はじめに—

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 立地と環境	2
第4節 調査の概要	2
第5節 土層について	5

## 第2章 一調査について—

第1節 アカホヤ火山灰層上面での調査	7
第2節 縄文時代早期の調査	9
第3節 旧石器時代の調査	13

第3章 一まとめ	18
----------	----

調査抄録	21
------	----

## 挿 図 目 次

第1図 坂元第2遺跡位置図(S=1/25000) .....	3
第2図 坂元第2遺跡周辺地形図(S=1/2000) .....	4
第3図 坂元第2遺跡基本土層図—谷部—(S=1/30) .....	5
第4図 坂元第2遺跡基本土層図—平坦部—(S=1/30) .....	5
第5図 坂元第2遺跡削平状況(S=1/300) .....	6
第6図 アカホヤ火山灰層上面遺構配置図(S=1/150) .....	8
第7図 繩文時代早期遺物分布図(S=1/300) .....	10
第8図 繩文時代早期遺物実測図—1—(S=1/2) .....	11
第9図 繩文時代早期遺物実測図—2—(S=2/3) .....	12
第10図 旧石器時代遺物分布図(S=1/300) .....	14
第11図 旧石器時代遺物実測図—1—(S=2/3) .....	15
第12図 旧石器時代遺物実測図—2—(S=2/3・1/2) .....	16

## 図 版 目 次

カラー図版 1 坂元第2遺跡A区全景 .....	2
カラー図版 2 坂元第2遺跡B区全景 .....	2
カラー図版 3 S E -1完掘 .....	7
カラー図版 4 S E -2完掘 .....	7
カラー図版 5 S E -3・4・5・6完掘 .....	7
カラー図版 6 坂元第2遺跡調査風景 .....	18
モノクロ図版 1 繩文時代早期遺物写真 .....	19
モノクロ図版 2 旧石器時代遺物写真 .....	20

# 第1章 ーはじめにー

## 第1節 調査に至る経緯

平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全整備事業に伴い、事業区の一部に坂元第2遺跡が含まれることが確認された。遺跡の取り扱いについて宮崎県中部農林振興局と慎重に協議したところ、耕作土の確保等による事業設計上の理由により、遺跡の大部分がやむを得ず削平されることとなつたため、影響を受ける範囲について発掘調査を行い、記録保存することとなつた。

調査は宮崎県中部農林振興局の委託を受け清武町教育委員会が実施し、期間は平成16年7月2日から平成17年1月11日まで、調査面積は約530m<sup>2</sup>である。

## 第2節 調査の組織

調査の組織は、次の通りである。

調査主体 清武町教育委員会

教育長 湯地 敏郎（～平成16年5月）  
 神川 孝志（平成16年8月～）

教育次長 北岡 義郎（～平成16年7月）  
 鎧 和俊（平成16年7月～）

社会教育課長 松元 一夫  
 社会教育課長補佐 平松 三郎（～平成16年7月）  
 社会教育課文化係長 伊東 但

調査員

社会教育課主任 井田 篤  
 社会教育課主事 秋成 雅博  
 社会教育課嘱託 若杉 知和（平成16年4月～）  
 社会教育課嘱託 草野 美香（平成16年4月～）

### 第3節 立地と環境

坂元第2遺跡は清武町北西部の船引地区に所在し、町内を北西から南東へと流れる清武川左岸、約70mのシラス台地上に立地する。近辺には東九州自動車道建設や県営農地保全整備事業に伴い発掘調査が行われた上ノ原遺跡、白ヶ野遺跡、滑川遺跡、山田遺跡、坂元遺跡、上猪ノ原遺跡、下猪ノ原遺跡、などが所在している（第1図参照）。これらの遺跡からは、旧石器から近世まで、幅広い時期の遺物や遺構が確認されているが、なかでも縄文時代早期の遺物や遺構が多数発見されている。

### 第4節 調査の概要

本遺跡の調査では、調査進行上の都合により調査区をA・Bの2つに区分けし、まず、A区の調査を行い、次にB区の調査を行った。

A区については、まず、重機による表土（耕作土）の剥ぎ取りを行った結果、傾斜地を削平して耕作が行われていたために、3層から10層が複雑に露出している状況であった（第5図参照）。その後、5層（アカホヤ火山灰層）上面において縄文時代前期以降の遺物や遺構の検出作業を行った結果、溝状遺構が検出されたため記録を行い、終了後、5層を除去した。削平をうけていない範囲においては、アカホヤ火山灰層下前の旧地形を復元するために6層上面において等高線の記録作業を行い、終了後に縄文時代早期・草創期の包含層である6層から8層を調査した。その結果、遺物のみの出土で遺構は検出されなかった。6層から8層の調査終了後、旧石器時代の包含層である9層以下の調査を行い、A区の調査を終了した。

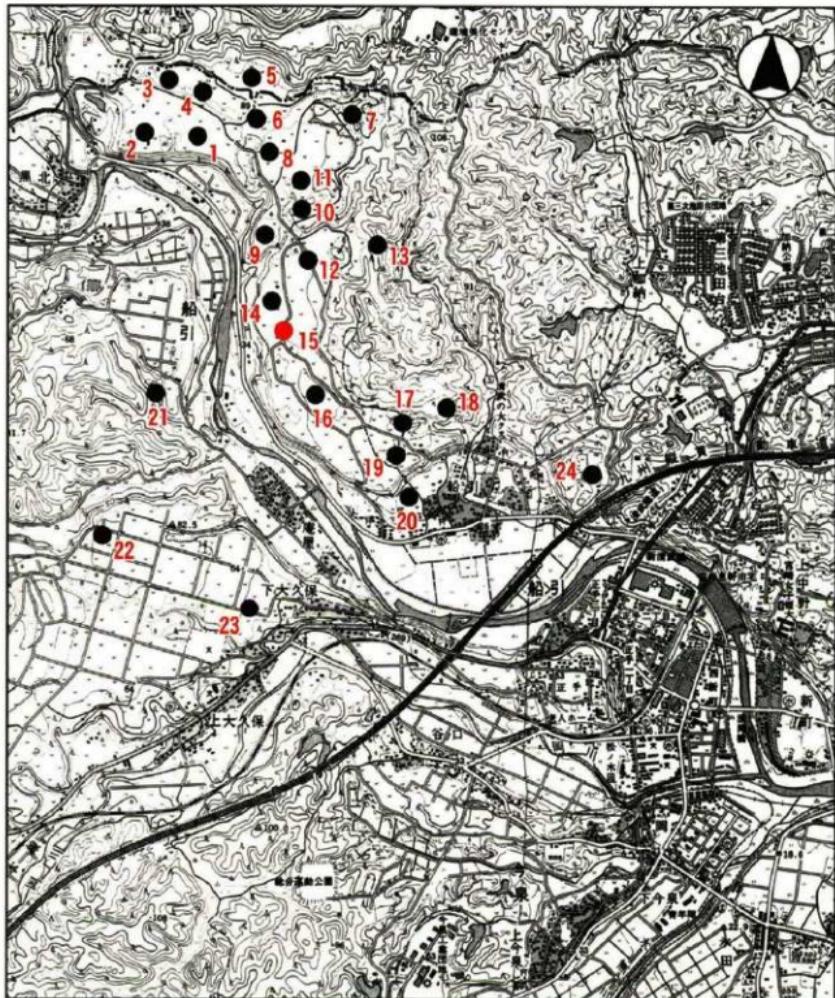
B区については、重機と人力を併用して表土を剥ぎ取った。B区は平坦であったため、A区に比べると畑の造成による削平の影響は少なく、5層が良好な状態で残っていた。表土の除去後はA区と同様に調査を行なった。まず、5層上面における調査した結果、検出されたピットの記録作業を行い、終了後、5層を除去した。次にアカホヤ火山灰層下前における旧地形を復元するために6層上面において等高線の記録を行い、終了後に6層以下の調査を行なったところ、A区と同様に遺物のみの出土で遺構は検出されなかった。その後、旧石器時代の調査のために調査区の東側、西側にトレンチを設定し調査を行い、B区の調査を終了した。



カラー図版1 坂元第2遺跡A区全景



カラー図版2 坂元第2遺跡B区全景



- |            |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1. 上ノ原第1遺跡 | 2. 上ノ原第2遺跡 | 3. 上ノ原第3遺跡 | 4. 上の原第4遺跡 | 5. 白ヶ野第3遺跡 |
| 6. 白ヶ野第2遺跡 | 7. 白ヶ野第4遺跡 | 8. 白ヶ野第1遺跡 | 9. 清川第1遺跡  | 10. 清川第2遺跡 |
| 11. 清川第3遺跡 | 12. 山田第1遺跡 | 13. 山田第2遺跡 | 14. 板元遺跡   | 15. 坂元第2遺跡 |
| 16. 上猪ノ原遺跡 | 17. 札立第2遺跡 | 18. 札立第1遺跡 | 19. 下猪ノ原遺跡 | 20. 榎現原遺跡  |
| 21. 権現原遺跡  | 22. 杉木原遺跡  | 23. 竹ノ内遺跡  | 24. 清武城跡   |            |

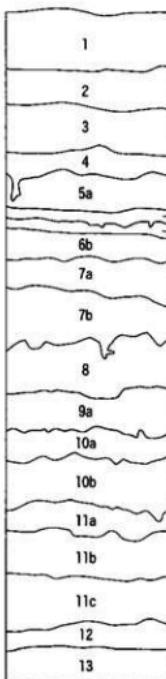
第1図 坂元第2遺跡位置図 ( $S = 1/25000$ )



第2図 坂元第2遺跡周辺地形図 ( $S = 1/2000$ )

## 第5節 土層について

今回、本遺跡では、谷部と平坦部の2箇所で土層の確認を行なったところ（第5図参照）、谷部では第3図、平坦部では第4図という異なる堆積状況が確認された。まず、アカホヤ火山灰層上位に目を向けると、平坦部では表土のみが堆積しているが、谷部ではその地形的特徴から、表土とアカホヤ火山灰層との間に約60cmの厚みをもって、黒色シルト質ローム層とアカホヤの二次堆積層が堆積していた。次にアカホヤ火山灰層の下位に目を向けると、谷部は平坦部に比べて7層以下の堆積が厚く、特に11層では約2倍もの厚みをもっていた。

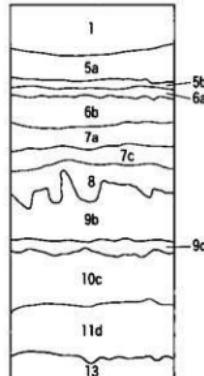


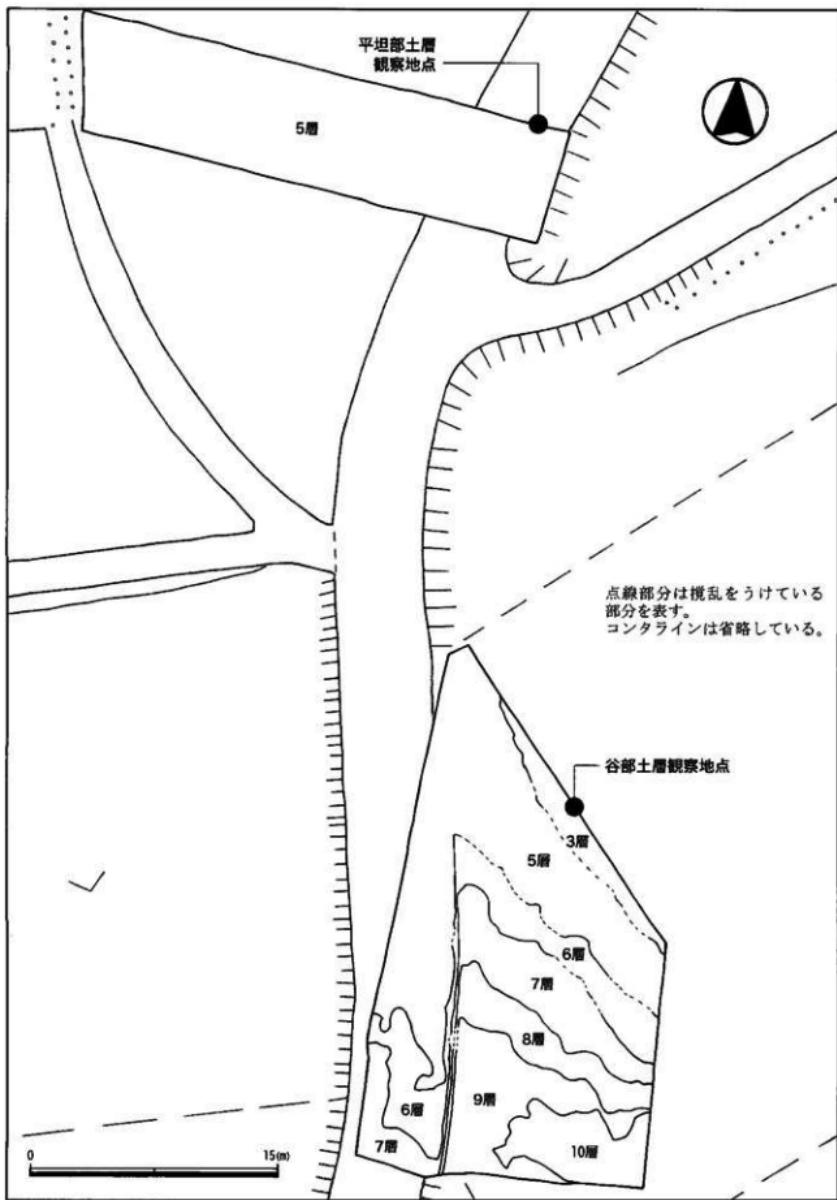
1. 表土（耕作土）
2. 黒色シルト質ローム層(10YR2/1)明褐色の粒を多量に含む
3. 黒色シルト質ローム層(2.5YR5/1)
4. アカホヤの二次堆積層(7.5YR5/6)
- 5a. アカホヤ火山灰層(7.5YR5/8)
- 5b. アカホヤ火山灰層(7.5YR5/8)
- 6a. 黒色シルト質ローム層(7.5YR2/1)アカホヤ火山灰輕石を多量に含む やや硬質
- 6b. 黒色シルト質ローム層(7.5YR2/1)6aと同色であるが、アカホヤ火山灰輕石を少量含み、白色バミスを多量に含む やや硬質
- 7a. 黑褐色シルト質ローム層(7.5YR3/1)やや硬質
- 7b. 黑褐色シルト質ローム層(7.5YR3/1)7aと同色であるが、褐色の粒 白色バミスを少量含む やや硬質
- 7c. にぶい黄褐色シルト質ローム層 褐色の粒と白色バミスを含む やや硬質
8. 露島小林火山灰風化層(10YR5/4)露島小林火山灰の小ブロックを含む 硬質
- 9a. 露島小林火山灰層(10YR3/3)硬質
- 9b. 露島小林火山灰層(10YR3/3)硬質
- 9c. 露島小林火山灰層(10YR5/3)硬質 9bに比べ、露島小林火山灰層の粒が細かい 硬質
- 10a. 黄褐色シルト質ローム層(10YR3/3)露島小林火山灰層の粒を含み粘性を帯びる 軟質
- 10b. 黑褐色シルト質ローム層(10YR2/3)10aに比べやや硬質で露島小林火山灰層の粒を少量含む
- 10c. にぶい黄褐色シルト質ローム層(10YR4/3)やや硬質
- 11a. 暗褐色シルト質ローム層(10YR4/4)硬質
- 11b. 暗褐色シルト質ローム層(10YR4/6)11aに比べわずかに明るく 始良丹沢火山灰の粒をごく少量含む 硬質
- 11c. 暗褐色シルト質ローム層(10YR4/6)11bと同色であるが始良丹沢火山灰の粒が大きい 硬質
- 11d. にぶい黄褐色シルト質ローム層(10YR5/4)始良丹沢火山灰の小ブロックを含む 硬質
12. 始良丹沢火山灰風化層(2.5YR4/2)硬質
13. 始良丹沢火山灰層(2.5Y5/2)

第3図 坂元第2遺跡  
基本土層図 - 谷部 - (S = 1 / 30)



第4図 坂元第2遺跡  
基本土層図 - 平坦部 - (S = 1 / 30)





第5図 坂元第2遺跡削平状況 ( $S = 1/300$ )

## 第2章 －調査について－

### 第1節 アカホヤ火山灰層上面での調査

今回の調査では、遺物は出土せず、6条の溝状遺構（第6図参照）と幾つかの小ピットが検出された。溝状遺構は烟の造成による削平と木の根やイモ穴（種芋の貯蔵穴）の搅乱により良好な状態で残っていなかった。そのため、検出面での総長、幅、深さが測定できないものに関しては記述していない。

溝状遺構の概要是以下の通りである。

#### ■ S E - 1

南から北へ伸びる溝状遺構である。数ヶ所搅乱を受けており、良好な状態では残っていなかった。検出総長8.9m 深さ0.2mを測る。

#### ■ S E - 2

S E - 1と並列する溝状遺構で、数ヶ所搅乱を受けていた。検出総長8.9m 幅0.3～0.7m 深さ0.08mを測る。

#### ■ S E - 3・4

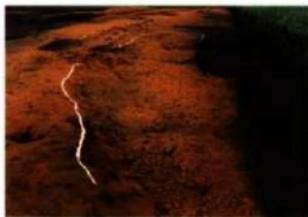
2条とも南から北へ伸びると推測される溝状遺構である。烟の造成に伴う削平と搅乱によりほとんど残っていなかった。S E - 4とS E - 3が切り合っており、また埋土が同質であったために、互いの新旧関係は不明である。尚、S E - 3の幅は0.4～0.5m 深さは0.09m、S E - 4の幅は1.7mを測る。

#### ■ S E - 5

烟の造成に伴う削平及び搅乱の影響を受けたために溝の大部分が破壊され、その形状については部分的に確認できるだけであった。おそらく南から北へ伸びる溝状遺構と推測される。

#### ■ S E - 6

南から北へ伸びる溝状遺構で、比較的良好な状態で検出された。検出総長7.7m 幅0.5～0.7m 深さ0.1mを測る。



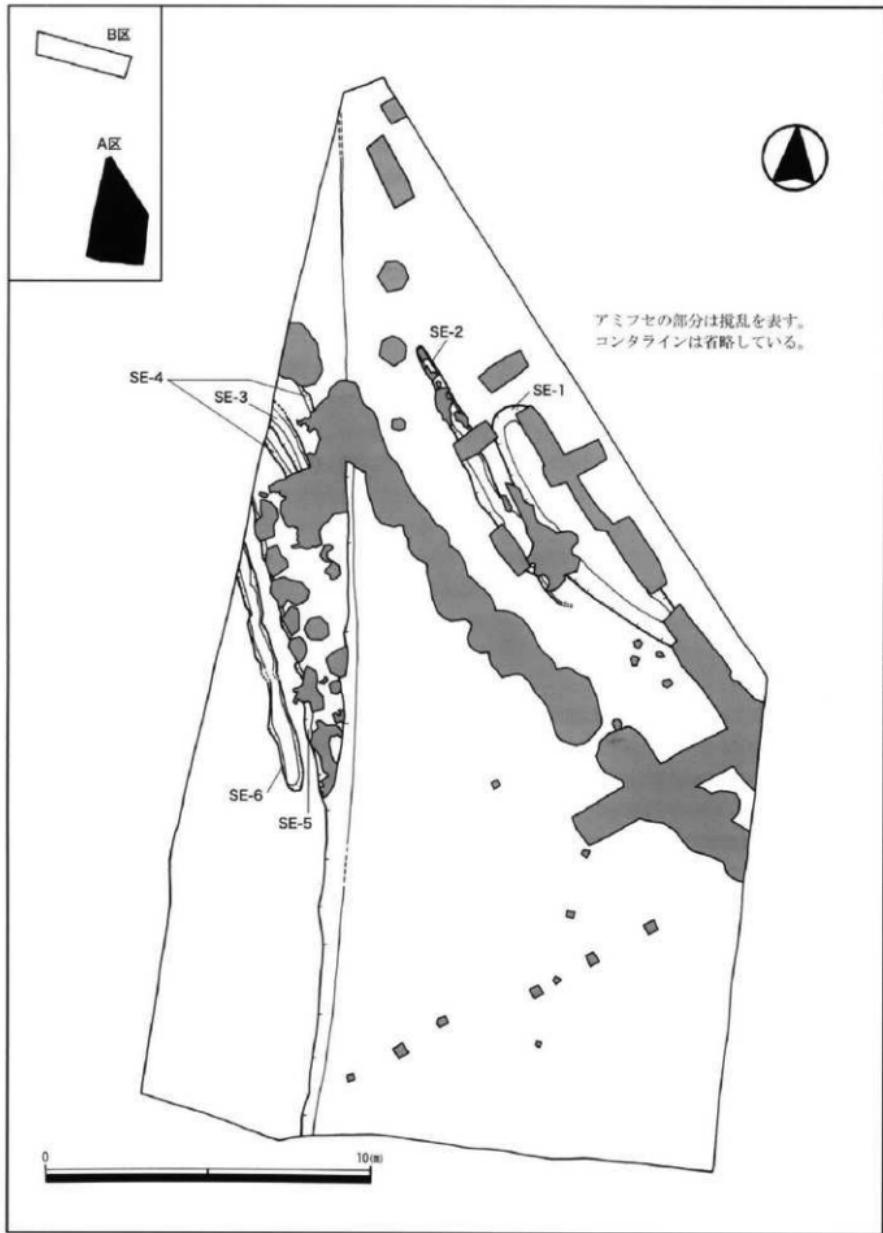
カラー図版3 S E - 1



カラー図版4 S E - 2



カラー図版5 S E - 3・4・5・6



第6図 アカホヤ層上面遺構配置図 ( $S = 1/150$ )

## 第2節 繩文時代早期の調査

A区では、アカホヤ火山灰層上面の調査終了後、アカホヤ降下前における当遺跡の地形を復元するため、6層上面において等高線の記録作業を行い、終了後6層から8層の掘り下げを行った。今回、遺物は6層から集中して出土し、特に土器は6層のみで出土した。観察した結果、土器の中には形式判別が困難な小破片があるものの、大多数が塞ノ神式土器であることが判った。7層の掘り下げに入ると遺物は極端に減少し、石鏃2点が出土のみで、他には小礫が散在する程度であった。7層中位以下の層からは、土器や石器は出土せず、小礫3点が検出された。

B区では、6層で石鏃1点と礫が1点、7層で剥片2点が出土しただけで土器は出土しなかった。

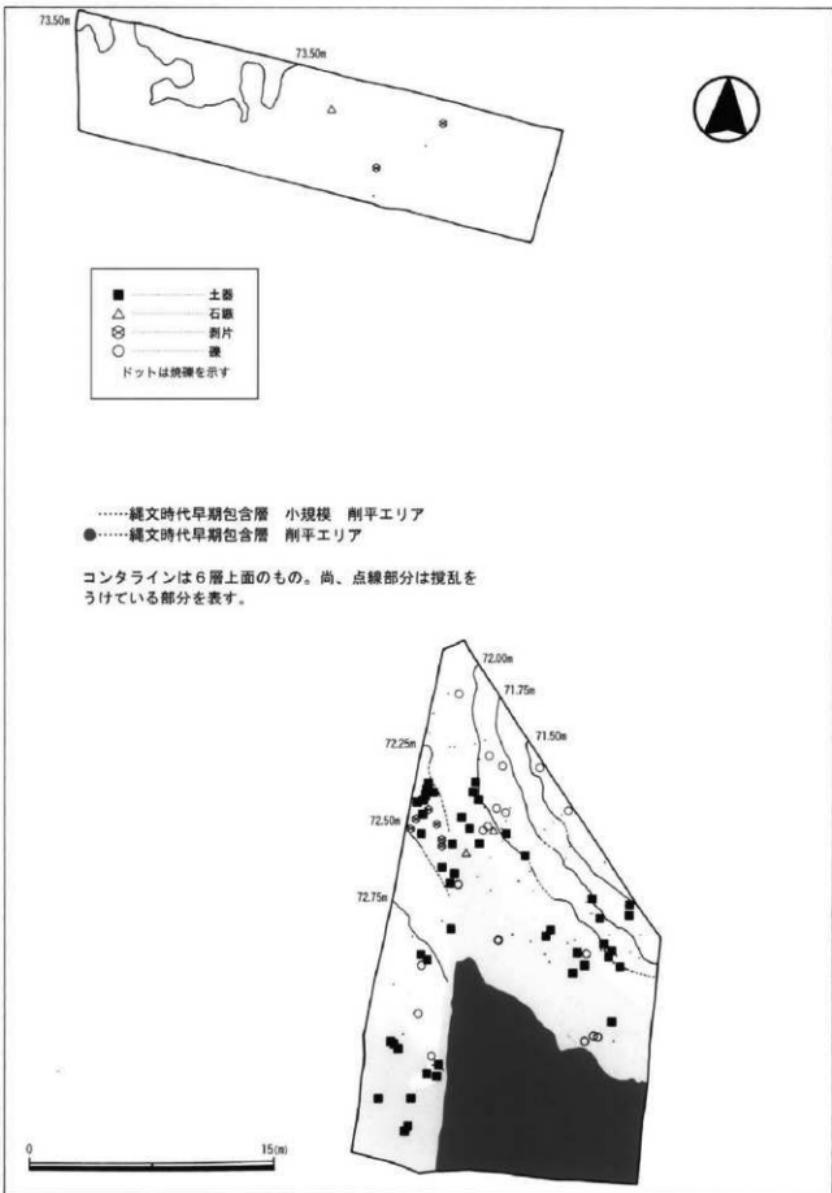
### ■ 繩文時代早期の出土遺物について

#### ① 土器（第8図参照）

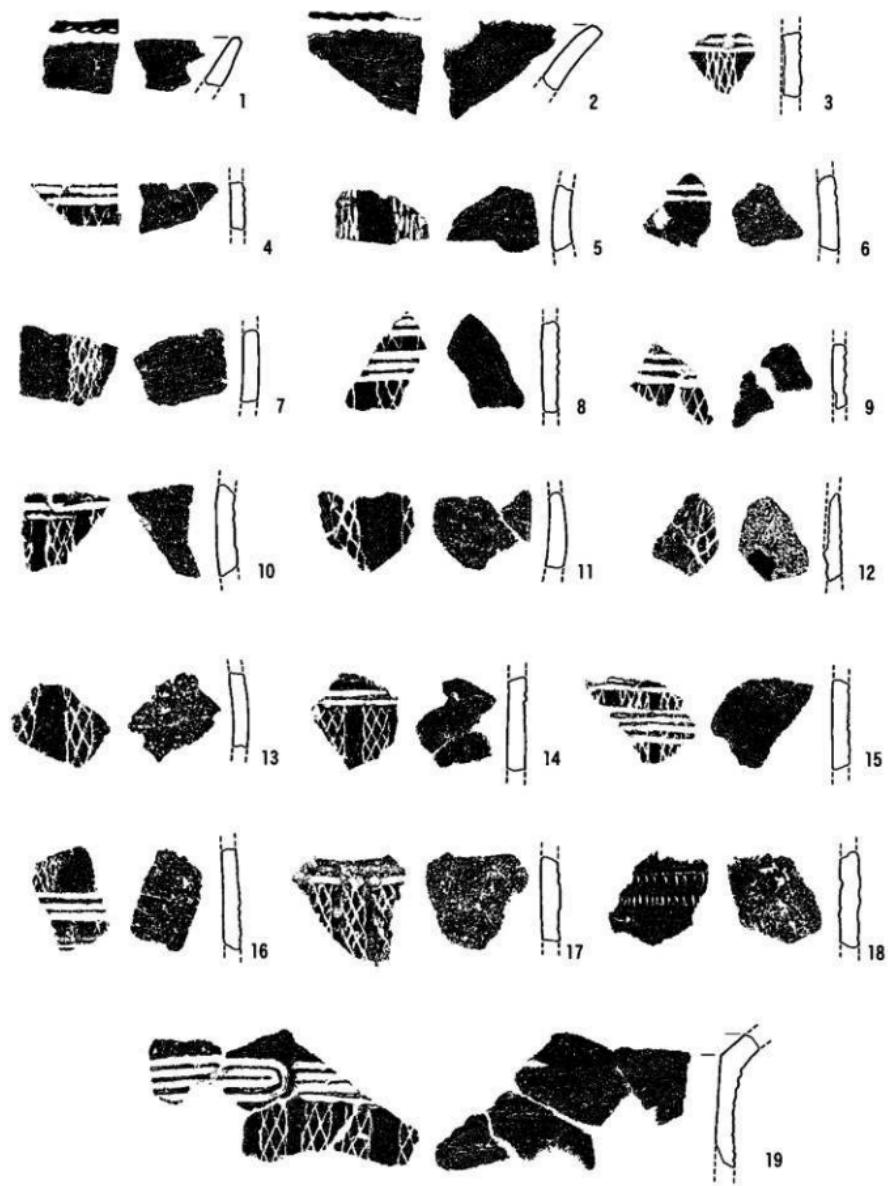
土器は合計47点出土した。塞ノ神式土器と判別できたものは33点でそのうち19点を資料化した。1～2は口縁部である。口唇部に連続して刻み目を施している。3～17は胸部である。沈線文のみを施しているもの、縦位の撚糸文のみを施しているもの、両者を施しているものがある。19は頸部～胸部である。沈線文と縦位の撚糸文を施している。18は微隆起線文に連続刻目が施してある。部位については不明である。

#### ② 石器（第9図参照）

石器は合計11点出土し、そのうち7点を資料化した。20～22は打製石鏃である。22には基部に抉りをいれている。使用している石材は、20は桑ノ木津留産黒曜石、21は砂岩、22はサヌカイトである。23は二次加工を施している頁岩製の剥片である。剥片制作の際におきる縦折れがみられる。24は頁岩製の剥片である。ポジティブ面に自然面を残す25は砂岩製の剥片である。26は頁岩製の石核である。ポジティブ面に自然面を多く残している。



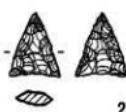
第7図 縄文時代早期遺物分布図 ( $S = 1/300$ )



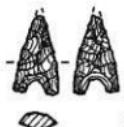
第8図 繩文時代早期遺物実測図-1-(S=1/2)



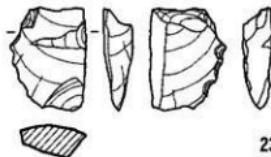
20



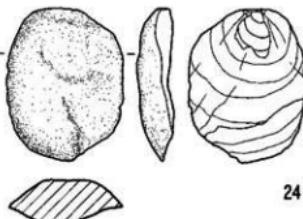
21



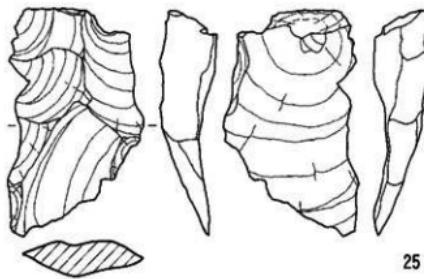
22



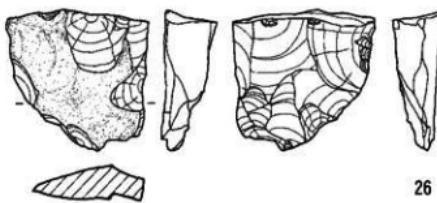
23



24



25



26



第9図 繩文時代早期造物実測図-2-(S=2/3)

### 第3節 旧石器時代の調査

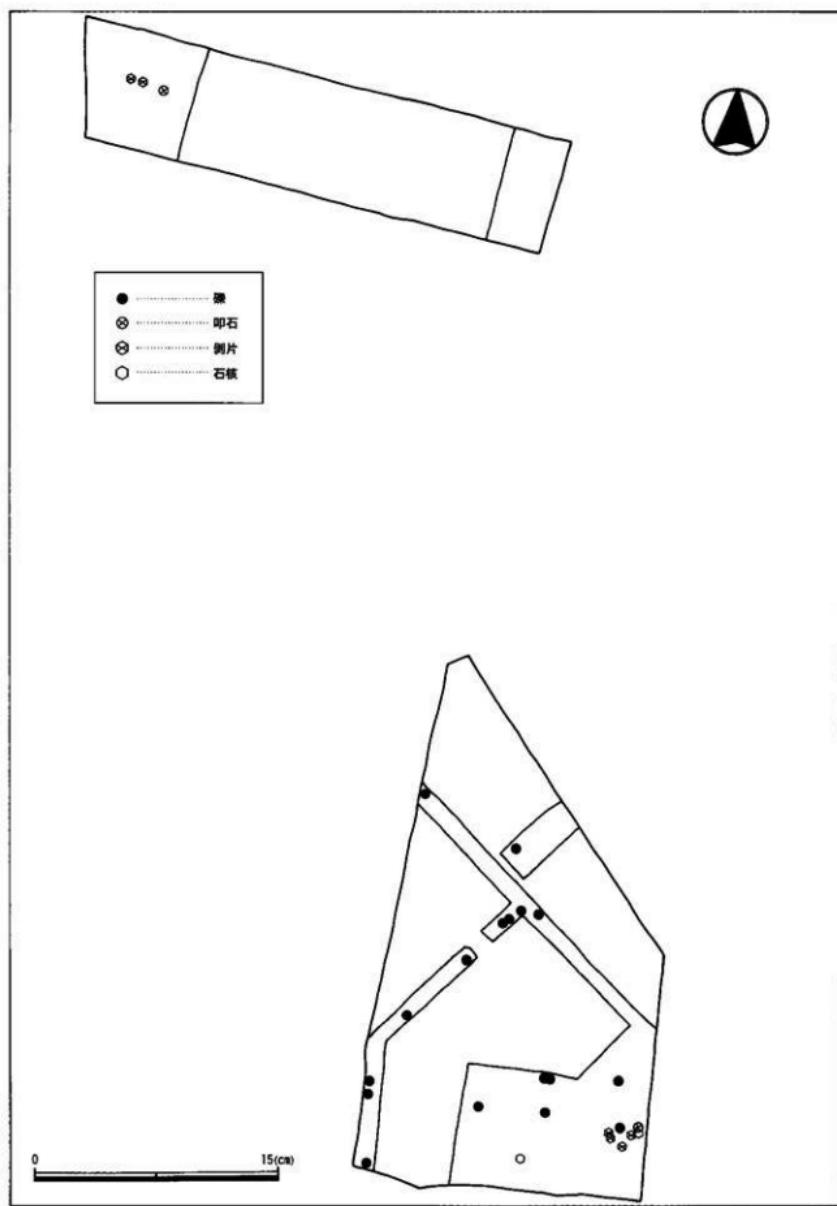
A区では、アカホヤ火山灰層上面の調査を行なっている間、既に9層、10層が露出していた調査区の南側に5m×10mの範囲を設定してトレンチ調査を行なった。これは旧石器時代の遺物や遺構の有無を事前に確認するためのもので、結果10層から剥片が4点、石核1点、敲石1点のほかに礫が数点出土した。旧石器時代の遺物を確認したことをうけ、一旦、トレンチ調査を終了し、縄文時代早期の調査に移った。

縄文時代早期の調査終了後、調査区全体の地形と先行トレンチ調査の結果を考慮して、旧石器の広がりを確認するためのトレンチ調査を数箇所追加し、旧石器時代の調査範囲を決定した。その後に9層から11層の掘り下げを行なったところ、10層では礫が数点出土し、11層では石核が1点出土したほかには礫が数点出土したが、何らかのまとまりを示すような状況は確認できなかつた。

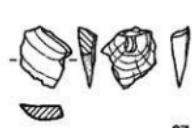
B区では、縄文時代早期の調査終了後、旧石器時代の遺物・遺構の有無を確認するために、調査区の東側と西側にそれぞれ6m×3mと6m×6mのトレンチ調査を行なった。東側のトレンチでは遺物や遺構は確認されず、西側のトレンチでも、11層で剥片2点と敲石1点が出土したのみであった。その結果を考慮して、旧石器時代の調査を終了した。

#### ■ 旧石器時代の遺物について（第11・12図27～36参照）

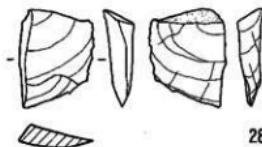
旧石器は合計10点出土した。27は砂岩製の剥片である。28は砂岩製の剥片である。剥片制作の際におきる縱折れがみられる。29は砂岩製の剥片である。ポジティブ面に自然面を残す。30は流紋岩製の剥片である。ポジティブ面に自然面を残し、側縁部に二次加工を施している。31は流紋岩製の剥片である。剥片の両面に黒色の付着物がみられる。32は流紋岩製の剥片である。ポジティブ面に自然面を多く残す。33～34は砂岩製の敲石である。35は棒状の砂岩製石核である。側縁部に数ヶ所打撃を加えている。36は砂岩製の石核である。側縁部に打撃を加えている。



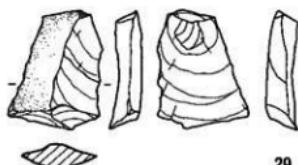
第10図 旧石器時代遺物分布図 ( $S = 1/300$ )



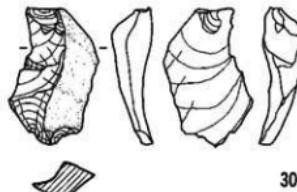
27



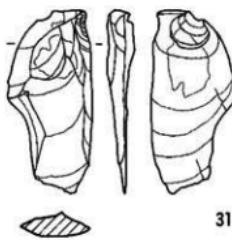
28



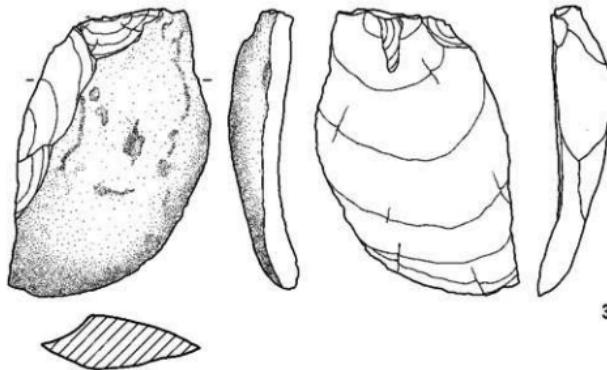
29



30



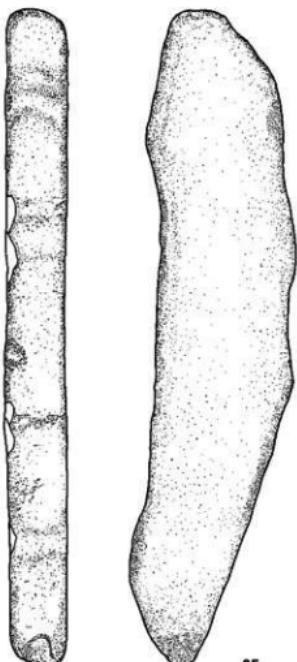
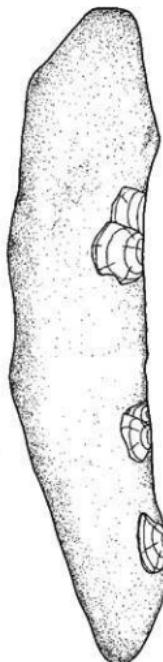
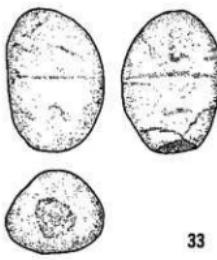
31



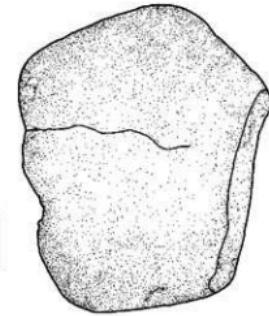
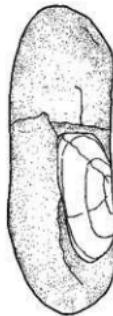
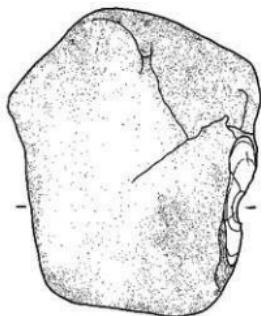
32



第11図 旧石器時代遺物実測図-1-(S = 2 / 3)



0 5(cm)



0 10(cm)

第12図 旧石器時代遺物実測図-2-(S=2/3・1/2)

表1 繩文時代早期遺物観察表（土器）

報告書 番号	遺物指 標番号	出土 場所	深さ	文様及び断面			色 調			地 上			備 考
				外側	内面	外側	内面	石英	長石	砂粒			
1	18	5	口縫部	ナデ	ナデ	SYW5/4 にぶい・黒褐	SYW7/2 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 口縫部に連續削み目	
2	12	5	口縫部	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/1 褐灰	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 口縫部に連續削み目	
3	5	5	脚部	ナデ 比縫 無文	不明	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○	2mm以下	基 / 神式土器 内面部薄	
4	13	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	SYW5/4 にぶい・黒褐	7.5YR5/2 灰黄褐	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
5	4	5	脚部	無文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 黒灰	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
6	17	5	脚部	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR7/2 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
7	14	5	脚部	無文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐	2.5YR5/2 暗赤褐	○	○	○	2mm以下	基 / 神式土器	
8	10	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 比縫文間に無文	
9	9	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/4 にぶい・黄褐	7.5YR7/1 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
10	7	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/2 にぶい・黄褐	10YR5/4 にぶい・黄褐	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
11	3	5	脚部	無文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・黒	SYW7/2 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
12	8	5	脚部	無文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・黒	7.5YR7/2 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 内面部薄巻らしい	
13	2	5	脚部	無文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・黒	SYW7/2 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
14	1	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/4 にぶい・黄褐	10YR7/1 灰白	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
15	11	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 比縫文間に無文	
16	16	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい・黒	7.5YR7/1 明褐色	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器 比縫文間に無文	
17	6	5	脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい・黒	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○	1mm以下	基 / 神式土器	
18	15	5	脚部	無縫文 後に工具 による刻み目 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい・黒	10YR5/3 にぶい・黄褐	○	○	○	2mm以下	基 / 神式土器	
19	19	5	脚部～脚部	ナデ 比縫 無文	ナデ	10YR5/3 にぶい・黄褐	7.5YR5/4 にぶい・黒	○	○	○	1mm以下	高 / 神式土器	

表2 繩文時代早期遺物観察表（石器）

報告書 番号	遺物指 標番号	器 形	出土層位	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
20	29	石鏟	6	細粒岩 (巣ノ木床岩)	1.6	1.3	0.4	0.7	先端欠損
21	21	石鏟	6	砂岩	1.9	1.5	0.4	0.8	
22	22	石鏟	5	安山岩	2.4	1.4	0.5	1	先端欠損
23	23	二次加工のある剥片	5	頁岩	3.1	2.3	0.9	6.4	複数個あり
24	24	剥片	6	頁岩	4.6	3.5	1.3	20.4	
25	25	剥片	5	砂岩	6.7	4.1	1.7	30.3	
26	26	石核	5	頁岩	4.3	4.4	1.5	30	

表3 旧石器時代遺物観察表

報告書 番号	遺物指 標番号	器 形	出土層位	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
27	27	剥片	10	砂岩	1.8	1.6	0.5	1.1	跡跡面あり
28	28	剥片	10	砂岩	1.9	2.3	0.8	4.6	断折れあり
29	29	剥片	10	砂岩	3.5	0.8	0.8	7.4	
30	30	二次加工のある剥片	10	流紋岩	4.1	1.1	1.2	7.8	
31	31	剥片	11	斑状岩	5.5	2.6	0.8	8.1	黑色の付着物有り
32	32	剥片	11	斑状岩	8.6	6.2	1.7	84.1	
33	33	叩石	11	砂岩	4.3	2.8	2.5	41.6	
34	34	叩石	10	砂岩	6.1	7.2	3.4	192.2	
35	35	石核	11	砂岩	19.6	5	1.8	265.9	
36	36	石核	10	砂岩	12.4	10.2	4.3	685.3	

## 第3章 一まとめ一

アカホヤ層上面で検出された溝状遺構については、遺構の大部分が烟の造成に伴う削平と木の根やイモ穴等による搅乱を受け、良好な状態では検出されなかった。遺構の時期については、埋土中から遺物が出土していないことなどから正確な時期を決定することはできなかった。しかし、同じ台地上の上猪ノ原遺跡（第2・第3地区）、下猪ノ原遺跡（第1・第2地区）で検出された溝状遺構の事例を考慮すると、おそらく中世～近世にかけて造られたものと思われる。また、遺構の性格については、道路、排水施設、境界が考えられているが、現段階では不明である。

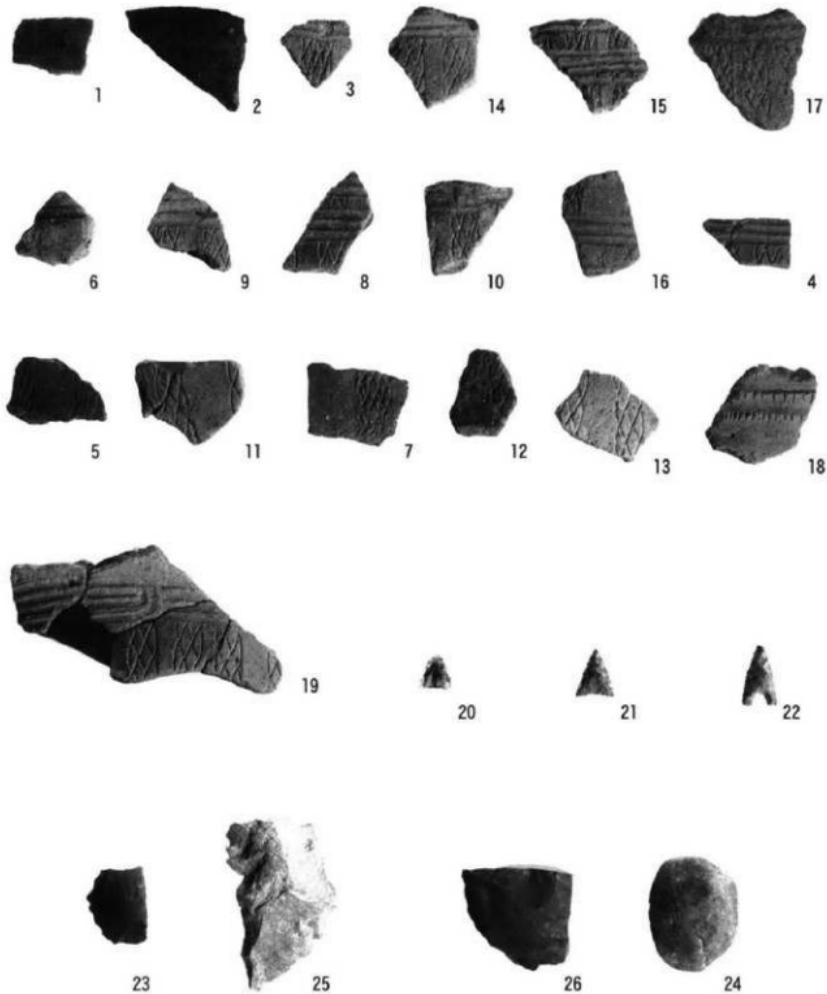
次に、縄文時代早期については、遺構は検出されずに遺物のみの出土であった。出土した土器のほとんどは塞ノ神式土器であったために、縄文時代早期のなかでも後半に該当する時期に当遺跡で人々が生活していたと推測される。

旧石器時代については、調査区の地形と先行トレンチ調査を考慮して決定した範囲のみで調査を行なった。その結果、A区、B区共に10層以下から遺物が数点出土したが、遺物のまとまりは確認されなかった。

坂元第2遺跡の調査は、船引台地上に所在する他の遺跡（第1図参照）に比べ、遺物や遺構の総数が少なかった。それは、密度の濃い遺跡が集中する当台地上縁辺部ではなく、そこからやや離れてた場所に当遺跡が立地しているためだと推測される。



カラー図版6 坂元第2遺跡調査風景



モノクロ図版 1 繩文時代早期遺物写真



30



27



28



29



31



32



33



34



35



36

モノクロ図版2 旧石器時代遺物写真

## 調査抄録

フリガナ	サカモトダイニ				
書名	坂元第2遺跡				
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書				
巻次	第1集				
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第16集				
編集者名	若杉知和				
発行機関	清武町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地				
発行年月日	2005年3月				
所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東経	調査期間
坂元第2遺跡	清武町大字船引	清武町：207	31° 52' 10" (日本側地形2000)	131° 22' 11" (日本側地形2000)	2004/7/2～2005/1/11
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
530m <sup>2</sup>	農業関連	集落	旧石器	溝状遺構など	縄文時代早期 土器（塞ノ神式）・石器
			縄文		
			中近・近世		
特記事項					

---

清武町埋蔵文化財調査報告書 第12集

## 坂元第2遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財告書

発行年月日 平成17年3月18日

編集発行 清武町教育委員会

〒889-1696 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204

T E L 0985-85-1111

印 刷 有限会社いろは企画

〒889-1603 宮崎郡清武町正手3丁目19-2

T E L 0985-85-5889

---

